

【表紙】

| | |
|------------|---|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成23年8月11日 |
| 【四半期会計期間】 | 第192期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日） |
| 【会社名】 | 大東紡織株式会社 |
| 【英訳名】 | Daito Woolen Spinning & Weaving Co.,Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 取締役社長 国広 伸夫 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都中央区日本橋小舟町6番6号 |
| 【電話番号】 | 03(3665)7843 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役経営管理本部管理部長 加久間 雄二 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都中央区日本橋小舟町6番6号 |
| 【電話番号】 | 03(3665)7843 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役経営管理本部管理部長 加久間 雄二 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄3丁目8番20号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第191期 第1四半期 連結累計期間 | 第192期 第1四半期 連結累計期間 | 第191期 |
|---------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 会計期間 | 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日 | 自平成23年4月1日 至平成23年6月30日 | 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日 |
| 売上高(千円) | 2,221,500 | 1,729,299 | 8,329,775 |
| 経常利益又は経常損失() (千円) | 18,317 | 50,944 | 50,478 |
| 四半期(当期)純損失(千円) | 4,105 | 56,680 | 26,970 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 2,290 | 24,463 | 127,361 |
| 純資産額(千円) | 4,343,744 | 4,188,359 | 4,212,823 |
| 総資産額(千円) | 23,079,312 | 22,305,990 | 22,590,048 |
| 1株当たり四半期(当期)純損失 金額(円) | 0.14 | 1.89 | 0.90 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円) | - | - | - |
| 自己資本比率(%) | 16.8 | 16.9 | 16.8 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー(千円) | 81,224 | 24,644 | 481,428 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー(千円) | 47,555 | 25,658 | 120,084 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー(千円) | 125,297 | 13,734 | 347,991 |
| 現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円) | 705,701 | 810,510 | 793,160 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)を含んでいない。
3. 第191期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理している。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。
5. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成している。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

(1) 当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

(2) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前々期（第190期）において、紳士服販売子会社の不振が損益面に強く影響を与えたことなどにより、連続して営業損失および当期純損失を計上するとともに、「サントムーン柿田川」の第2期開発および第3期開発資金や紳士服販売子会社の赤字運転資金などの負担から、有利子負債額が高水準となっていた。当該状況の改善は進んでいるものの、その解消には至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在している。

ただし、「3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（6）」に記載のとおり、当該状況を解消し改善するための施策を講じ、「事業構造の改革」と「コスト構造の改革」を柱とする取り組みを進めていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断している。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にある中で、一時大きく落ち込んだ生産活動が持ち直しに転じるなど、このところ上向きの動きがみえ始めている。また、個人消費は下げ止まりとなってきたが、雇用・所得環境は、震災の影響が抜けきらず、厳しい状態が続いている。

繊維・アパレル業界においては、全体として厳しい環境ではあるものの、夏物セールの前倒し効果などもあり、6月には百貨店衣料品部門が4ヵ月ぶりに前年同月比若干のプラスに転じるなど、震災直後の厳しさが徐々に解消されつつある。

ショッピングセンター業界においては、震災以降の買い控えの反動から購買意欲が高まってきていることや6月後半の猛暑とセール時期が重なったことなどから、6月の全国既存ショッピングセンター売上が前年同月を2%上回るなど、復調の兆しが見えつつある。

このような事業環境の中で、当社グループは引き続き「中期経営計画2010～KAIKAKU～」に基づき、中核事業である「提案型OEM事業」と「商業施設事業」に注力するとともに、販売管理費の削減などの「コスト構造の改革」に継続して取り組んだ。

繊維・アパレル事業については、「提案型OEM事業」における新規取引開拓を推進するとともに、引き続き低採算事業の見直しや販売管理費の削減に努めた。一方で、メンズスーツ秋冬物の期末月での販売不振を背景として返品が前年に比べ増加した。不動産事業については、震災の影響から早期に脱するとともに、ゴールデンウィークバザールなどの催事イベントや広告宣伝に注力し、来店客数の維持・向上を図った。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高17億29百万円（前年同期比22.2%減）と減少したものの、販売管理費削減効果により営業利益32百万円（前年同期比72.5%減）と連結営業黒字を確保した。しかし、営業利益の減少額が有利子負債の圧縮に伴う支払利息削減効果を上回ったため、経常損失50百万円（前年同期は経常利益18百万円）となった。これに、法人税、住民税及び事業税等を加減した結果、四半期純損失56百万円（前年同期は四半期純損失4百万円）となった。

セグメントの業績は次のとおりである。

（繊維・アパレル事業）

衣料部門については、メンズ衣料は主として低採算取引の縮小およびメンズスーツ秋冬物の期末月での販売不振を背景とした返品増加などにより、売上高は前年同期を下回った。レディース衣料は、新規取引を推進したものの、主として大口案件の売上が前期に前倒しになった影響により、売上高は前年同期を下回った。

ユニフォーム部門については、震災の影響により官庁の入札・発注の時期が遅れ苦戦したものの、民需の受注が順調であったことから、売上高は前年同期並みとなった。

寝装品部門については、アイスジェルなどのエコ関連商品の受注が伸びたものの、震災による買い控えの影響などにより主力の羊毛布団が伸び悩んだことから、売上高は前年同期を下回った。

この結果、繊維・アパレル事業の売上高は11億73百万円（前年同期比29.1%減）、営業損失69百万円（前年同期は営業利益19百万円）となった。

（不動産事業）

不動産事業については、「サントムーン柿田川」および「サントムーンアネックス」とも好調を維持したものの、節電効果による光熱費削減に比例してテナントからの共益収入が減少した。一方、減価償却費の減少などによる販売管理費が減少した。

この結果、不動産事業の売上高は5億56百万円（前年同期比1.9%減）と減少したものの、営業利益は2億5百万円（前年同期比2.3%増）と前年同期を上回った。

（注）1．上記のセグメントの業績に記載している営業利益は、セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載している。

2．当社の消費税等に係る会計処理は、税抜方式によっているため、記載した金額には消費税等は含まれていない。

3．記載している見通し等将来についての事項は、四半期報告書提出日現在において判断したものであり、予測しえない経済環境の変化等様々な要因があるため、その結果について当社グループが保証するものではない。

(2) 財政状態の分析

資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は223億5百万円（前期末は225億90百万円）となり、前期末に比べ2億84百万円減少（前期末比1.3%減）した。これは主に、受取手形及び売掛金の減少2億5百万円、建物及び構築物の減少1億9百万円によるものである。

負債

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は181億17百万円（前期末は183億77百万円）となり、前期末に比べ2億59百万円減少（前期末比1.4%減）した。これは主に、支払手形及び買掛金の減少1億86百万円、短期借入金の減少3億96百万円、長期借入金の増加4億31百万円、長期預り保証金の減少48百万円によるものである。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における少数株主持分を含めた純資産の残高は41億88百万円（前期末は42億12百万円）となった。

万円)となり、前期末に比べ24百万円減少(前期末比0.6%減)した。これは主に、四半期純損失56百万円、為替換算調整勘定の増加12百万円、少数株主持分の増加12百万円によるものである。

(3) キャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・フローで24百万円のプラス(前年同期比69.7%減)、投資活動によるキャッシュ・フローで25百万円のマイナス(前年同期は47百万円のマイナス)、財務活動によるキャッシュ・フローで13百万円のプラス(前年同期は1億25百万円のマイナス)となった。

これらの各活動に加え、為替相場の変動による資金に係る換算差額4百万円のプラスを反映した結果、資金の残高は8億10百万円(前年同期比14.9%増)となり、前期末に比べ17百万円増加した。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、24百万円のプラス(前年同期比69.7%減)となった。これは主に、減価償却費1億40百万円、売上債権の減少1億99百万円、仕入債務の減少1億88百万円、預り保証金の減少53百万円、利息の支払額85百万円によるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、25百万円のマイナス(前年同期は47百万円のマイナス)となった。これは主に、出資金の払込による支出18百万円によるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、13百万円のプラス(前年同期は1億25百万円のマイナス)となった。これは主に、短期借入金の純増加額3億69百万円、長期借入れによる収入9億68百万円、長期借入金の返済による支出13億3百万円によるものである。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(5) 研究開発活動

該当事項なし。

(6) 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象を解消し、又は改善するための対応策

当社グループは、「1 事業等のリスク (2)」に記載のとおり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在している。

当社グループは、「スリム化を進め、利益率の高い企業体質へ転換する」ことを企図し、前期から「中期経営計画2010~KAIKAKU~」をスタートさせ、「事業構造の改革」と「コスト構造の改革」を柱とする諸施策への取り組みを進めている。この結果、前期は初年度の目標として掲げた「連結営業損益の黒字化」と「有利子負債の圧縮」について達成するとともに、財務面・損益面の改善を進めた。

当期についても、引き続き中期経営計画に基づき、従来の低採算のOEM事業の規模を縮小し、より高採算の「提案型OEM事業」へのシフトを進めるなど事業構造の見直しを行い、本業である繊維・アパレル事業の営業損益改善を図るとともに、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」に経営資源を投入し、不動産事業の営業損益の維持・向上を図っている。加えて、協力工場のアジアシフトによる売上原価の低減や販売管理費の削減を進めている。

当第1四半期連結累計期間における経営成績については、上記「(1) 経営成績の分析」に記載のとおり前年同期と比較して下回ったものの、概ね当期の計画通り推移している状況であり、また、有利子負債額は105億31百万円(前期末は105億26百万円)と若干増加したものの、前年同期末108億67百万円に比べると減少している。

当社グループとしては、当第1四半期においても中期経営計画に基づく諸施策を確実に実施しており、平成23年度通期では損益面・財務面ともに計画通り実現し、中期経営計画で当年度の目標として掲げた「繊維事業部門の連結営業損益黒字化」を達成するとともに、引き続き余剰営業資金により「有利子負債の圧縮」を図る計画としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断している。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 96,000,000 |
| 計 | 96,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 普通株式 | 30,000,000 | 30,000,000 | 東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部 | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 30,000,000 | 30,000,000 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|--------------------------|-----------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 平成23年4月1日～ 平成23年6月30日 | - | 30,000,000 | - | 1,500,000 | - | 503,270 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 169,000 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 29,656,000 | 29,656 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 175,000 | - | - |
| 発行済株式総数 | 30,000,000 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 29,656 | - |

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が7,000株含まれている。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数7個が含まれている。

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有 株式数(株) | 他人名義所有 株式数(株) | 所有株式数の 合計(株) | 発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%) |
|----------------|-----------------------|------------------|------------------|-----------------|--------------------------------|
| 大東紡織(株) | 東京都中央区日本橋小舟町 6-6 | 62,000 | - | 62,000 | 0.20 |
| 宝繊維工業(株) | 静岡県浜松市北区初生町 1255-2 | 107,000 | - | 107,000 | 0.35 |
| 計 | - | 169,000 | - | 169,000 | 0.56 |

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,383,266 | 1,400,616 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,095,127 | 889,956 |
| たな卸資産 | 659,544 | 686,179 |
| その他 | 292,946 | 263,366 |
| 貸倒引当金 | 25,084 | 20,504 |
| 流動資産合計 | 3,405,799 | 3,219,614 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 8,540,546 | 8,431,146 |
| 土地 | 9,345,730 | 9,345,730 |
| その他(純額) | 552,689 | 538,839 |
| 有形固定資産合計 | 18,438,966 | 18,315,716 |
| 無形固定資産 | | |
| | 76,460 | 77,906 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 265,544 | 273,988 |
| 破産更生債権等 | 127,834 | 132,096 |
| その他 | 405,784 | 421,069 |
| 貸倒引当金 | 130,342 | 134,400 |
| 投資その他の資産合計 | 668,822 | 692,754 |
| 固定資産合計 | 19,184,248 | 19,086,376 |
| 資産合計 | 22,590,048 | 22,305,990 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 959,192 | 772,446 |
| 短期借入金 | 2,870,315 | 2,473,696 |
| 未払法人税等 | 15,618 | 8,091 |
| 返品調整引当金 | 115,695 | 115,695 |
| 賞与引当金 | 31,089 | 23,322 |
| その他 | 887,786 | 856,468 |
| 流動負債合計 | 4,879,696 | 4,249,718 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 6,490,509 | 6,921,773 |
| 長期預り保証金 | 3,470,096 | 3,421,576 |
| 繰延税金負債 | 7,773 | 7,597 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 2,941,904 | 2,941,904 |
| 退職給付引当金 | 124,421 | 134,485 |
| 資産除去債務 | 62,243 | 62,438 |
| その他 | 400,579 | 378,137 |
| 固定負債合計 | 13,497,527 | 13,867,912 |
| 負債合計 | 18,377,224 | 18,117,630 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 資本剰余金 | 503,375 | 503,375 |
| 利益剰余金 | 2,369,239 | 2,425,919 |
| 自己株式 | 6,809 | 6,809 |
| 株主資本合計 | 372,672 | 429,353 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 47,868 | 39,730 |
| 繰延ヘッジ損益 | 70 | 574 |
| 土地再評価差額金 | 4,264,422 | 4,264,422 |
| 為替換算調整勘定 | 48,100 | 35,851 |
| その他の包括利益累計額合計 | 4,168,523 | 4,188,265 |
| 少数株主持分 | 416,973 | 429,447 |
| 純資産合計 | 4,212,823 | 4,188,359 |
| 負債純資産合計 | 22,590,048 | 22,305,990 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|-----------------------------------|---|---|
| 売上高 | 2,221,500 | 1,729,299 |
| 売上原価 | 1,592,237 | 1,228,630 |
| 売上総利益 | 629,263 | 500,668 |
| 販売費及び一般管理費 | 511,420 | 468,268 |
| 営業利益 | 117,843 | 32,400 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 600 | 5,796 |
| 受取配当金 | 1,424 | 1,271 |
| その他 | 3,877 | 2,652 |
| 営業外収益合計 | 5,902 | 9,719 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 93,858 | 84,655 |
| その他 | 11,569 | 8,408 |
| 営業外費用合計 | 105,428 | 93,064 |
| 経常利益又は経常損失() | 18,317 | 50,944 |
| 特別利益 | | |
| 貸倒引当金戻入額 | 24,776 | - |
| 関係会社株式売却益 | 14,801 | - |
| その他 | 227 | - |
| 特別利益合計 | 39,804 | - |
| 特別損失 | | |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 38,751 | - |
| 特別損失合計 | 38,751 | - |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失() | 19,371 | 50,944 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 11,471 | 6,325 |
| 法人税等調整額 | 9,880 | 177 |
| 法人税等合計 | 21,352 | 6,147 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失() | 1,981 | 57,092 |
| 少数株主利益又は少数株主損失() | 2,123 | 411 |
| 四半期純損失() | 4,105 | 56,680 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|--------------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純損失() | 1,981 | 57,092 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 7,207 | 8,138 |
| 繰延ヘッジ損益 | 2,272 | 645 |
| 為替換算調整勘定 | 9,170 | 25,135 |
| その他の包括利益合計 | 309 | 32,628 |
| 四半期包括利益 | 2,290 | 24,463 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 10,429 | 36,937 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 8,138 | 12,474 |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|-------------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失() | 19,371 | 50,944 |
| 減価償却費 | 146,042 | 140,041 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 24,776 | 521 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 10,830 | 7,767 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 9,563 | 10,064 |
| 受取利息及び受取配当金 | 2,025 | 7,067 |
| 支払利息 | 93,858 | 84,655 |
| 関係会社株式売却損益(は益) | 14,801 | - |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 38,751 | - |
| 売上債権の増減額(は増加) | 678,468 | 199,647 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 83,805 | 24,921 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 712,233 | 188,427 |
| 預り保証金の増減額(は減少) | 55,188 | 53,778 |
| その他 | 62,703 | 18,216 |
| 小計 | 187,303 | 119,197 |
| 利息及び配当金の受取額 | 2,007 | 7,062 |
| 利息の支払額 | 94,803 | 85,977 |
| 法人税等の支払額 | 13,282 | 15,638 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 81,224 | 24,644 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | 11,993 | 2,948 |
| 資産除去債務の履行による支出 | - | 3,488 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 300 | 299 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 565 | - |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出 | 1,671 | - |
| 出資金の払込による支出 | 34,254 | 18,940 |
| その他 | 100 | 20 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 47,555 | 25,658 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(は減少) | 268,900 | 369,900 |
| 長期借入れによる収入 | - | 968,643 |
| 長期借入金の返済による支出 | 379,940 | 1,303,898 |
| リース債務の返済による支出 | 14,217 | 20,250 |
| 自己株式の純増減額(は増加) | 40 | - |
| 少数株主への配当金の支払額 | - | 660 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 125,297 | 13,734 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 407 | 4,629 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 91,220 | 17,350 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 796,921 | 793,160 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 705,701 | 810,510 |

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項なし。

【会計方針の変更等】

該当事項なし。

【追加情報】

| |
|---|
| 当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
| (会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用している。 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

| 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日) |
|-------------------------|------------------------------|
| 受取手形割引高 59,100千円 | 受取手形割引高 136,178千円 |

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

該当事項なし。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| 前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|--|--|
| 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) | 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) |
| 現金及び預金勘定 1,695,781千円 | 現金及び預金勘定 1,400,616千円 |
| 担保提供している定期預金 980,000千円 | 担保提供している定期預金 580,000千円 |
| 預入期間が3ヵ月を超える定期預金 10,080千円 | 預入期間が3ヵ月を超える定期預金 10,106千円 |
| 現金及び現金同等物 705,701千円 | 現金及び現金同等物 810,510千円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項なし。

2. 基準日が前第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項なし。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|---------------|---------|-----------|-------------|-------------------------------|
| | 繊維・アパ レル事業 | 不動産事業 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,654,594 | 566,906 | 2,221,500 | - | 2,221,500 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 15 | 480 | 496 | 496 | - |
| 計 | 1,654,610 | 567,387 | 2,221,997 | 496 | 2,221,500 |
| セグメント利益 | 19,611 | 200,613 | 220,225 | 102,381 | 117,843 |

(注)1. セグメント利益の調整額 102,381千円にはセグメント間取引消去 53千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 102,327千円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|---------------|---------|-----------|-------------|-------------------------------|
| | 繊維・アパ レル事業 | 不動産事業 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,173,102 | 556,196 | 1,729,299 | - | 1,729,299 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 82 | 480 | 563 | 563 | - |
| 計 | 1,173,185 | 556,677 | 1,729,862 | 563 | 1,729,299 |
| セグメント利益又は損失 () | 69,373 | 205,213 | 135,840 | 103,439 | 32,400 |

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 103,439千円は各報告セグメントに配分していない全社費用である。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略している。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略している。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略している。

(企業結合等関係)

該当事項なし。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|---------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純損失金額 | 0円14銭 | 1円89銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純損失金額(千円) | 4,105 | 56,680 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純損失金額(千円) | 4,105 | 56,680 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 29,939,338 | 29,937,191 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

該当事項なし。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月8日

大東紡織株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奈尾 光浩 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中島 達弥 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大東紡織株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大東紡織株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていない。